



Good News for Japan

おいてきぼりの魂

石川 和男



ゴールデンウィークは、皆さん、どのように過ごされますか。良い休養の時ですが、どこかへ行きませんか。普段と違う所へ行つてリフレッシュする——旅の醍醐味はそこにあります。

「休養」を英語で言うと、レクリエーション(recreation)ですが、この言葉には、再創造という意味があります。そのことをすることで心身がつくり変えられる、気分を一新することができる、また、自分を見失いかけた時にふと立ち止まって自分の立ち位置を確認する——休日をこのように

過ごせたら、本当にすばらしいことです。

さて、休むということにとても深い意味があることを教えてくれるエピソードがあります。

ある学術調査隊が中南米奥地に発掘調査に出かけました。調査隊は、たくさん荷物を運ぶために地元のインディアンたちを雇いました。出発から四日間はずっと調子を進み、スケジュールは大変はかどりました。ところが五日目になると、インディアンたちは黙って地べたに車座になり、

全く動こうとしなくなりました。調査員たちは賃金のアップを提案しましたが、だめ。叱りつけたり、ついには武器まで持ち出して脅したりしてみましたが、全く言うことを聞きませんでした。とうとう調査隊員たちはあきらめざるをえませんでした。日程には大幅な遅れが生じました。

二日後、突然、インディアンたちはいつせいに起き上がり、荷物を担いで歩き出したのです。彼らはこれについて何も要求せず、弁解も謝罪もしませんでした。この不思議な行動を学者た

ちはどう受け取ってよいかわかりませんでした。後になって、インディアンの一人が、親しくなった調査隊員にこう言ったそうです。

「初めの歩みが早すぎたので、私たちの魂が後から追いつくのを待たなければならなかった。」

超特急のようなスピードで突っ走っている私たちの生活。いつしか、

「俺って何やってんだろ？」

「私、こんなはずじゃなかった」

と、訳がわからなくなってしまうことがあるかもしれません。私たちは競争と結果を求められ、走り続けているうちに、自分の魂をどこかに置き去りにしてしまっているのです。

そんな私たちに向かって、イエス・キリストはこう言われました。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの轡を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」(マタイによる福音書11章28～29節)

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があるのか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。」(マタイによる福音書16章26節)

しばらく立ち止まって自分の今のところを眺めてみてください。あなたはそこでいいですか。そこがあなたにとって一番、あなたらしいところですか。

聖書は、イエス・キリストのそばこそ、私たち人間が本来生きるべきところである、と言っています。イエス・キリストを信じ、彼に自分をゆだねる時、私たちは置き忘れていた本当の自分を取り戻すことができるのです。

(救世軍士官(伝道者))



謹んで震災のお見舞いを申し上げます。

一日も早い被災者の方々の心の平安の回復と、被災地の復興をお祈り申し上げます。

東日本大震災の被災地の一つ、大船渡市。国道から海側にある市の中心街が、今回の津波で壊滅しました。ここで印刷会社を営んでいた熊谷雅也さんに、お話を伺いました。

熊谷さんの会社も、昨年の津波で流されたのですか。

熊谷 はい。ほんとにきれいに流されました。すつきりするくらい。あきらめがつきません。

でも、会社から百メートルくらい離れた所にあった倉庫は、流されませんでした。元酒屋だった建物の一階を借りて倉庫にしていたんですが、鉄骨二階建てのしつかり

した建物だったので残ったんです。そこに入れていた本も流出しませんでした。本は外箱に入り、それが段ボールに入っていたので、段ボールと外箱は泥にまみれ、ゆがんでしまいました。本そのものは大丈夫だったんです。三千部くらい残っていました。

それが、岩手県気仙地方の方言で書かれた『ケセン語訳新約聖書』ですね。

熊谷 はい。震災後、「お水くぐりの聖書」「大津波の洗礼を受けた聖書」として報道され、広く一般に知られて、売れたんです。昨年の五月〜九月は毎日、注文がありました。お陰様で完売しました。

21世紀のグーテンベルクをめざして



熊谷 雅也さん

「この『ケセン語訳新約聖書』はどのような経緯で出版することに？」
熊谷 私が通っている教会に、この本の著者山浦玄嗣先生がいらして、聖書をつくらないか、と声をかけていたんだんです。聖書を出版するなんてそうざらにある仕事ではありません。これは神の導きと思つて始めました。

熊谷さんは、いつクリスマスチャンになられたのですか。
熊谷 二十八、九歳の時です。父の姉―伯母がやっていた印刷所を引き継いで、二年ほど経った頃ですね。

熊谷 伯母様がやっておられた印刷所……。
熊谷 その印刷所は、戦後父が始めたものですが、その後、盛岡に引越すことになり、伯母にその印刷所を託したのです。昭和三十五年四月のことで、その一カ月後、チリ地震が起り、大船渡は津波の被害を受けました。今回のとは違って、静かに水が流れ込んできて引いていったのですが、それでも一階の天井まで水がきました。ただ、昔は活版印刷でしたので、機械を水で洗って、印刷業を続けることができました。

火が灯りました。場面が変わり、私は砂地に立っていました。水が流れていて、川上からノートのようなものが流れてきました。それを手に取って開きました。その瞬間、自分の悩みの正体に合点がいったのです。

そのノートに、助けになる言葉が書いてあった……。

熊谷 ノートは真つ白だったんです。そして神の音が聞こえたような気がしました。

「今、お前は苦しんだり悩んだりしているが、一番の問題は、そのノートに何を書きたいか、わからないことだ。」自分の人生で何をやりたいか、今の仕事を通して何を表現したいかわからないのが悩みのなだ、それを求めよと言われたのだと思えました。印刷物に書き込みたいものがわかれば、今の仕事は自分にふさわしいのだ、と確信しました。気持ちも落ち着きました。

それからは腰を据えて印刷業に励まれたのですか。

熊谷 はい。仕事のためにあつて地域に出るようになり

ました。青年会議所に入って、地域づくり、街づくり活動をやるようになったんです。それまで、学生時代にいた仙台に比べれば小さく寒々として住みたいと思わなかった大船渡の街が、深く関わるにしたがつて良く見えてきました。街人も好きになつてきました。友人ができるとその関係で、印刷の仕事も増え、順調にいくようになりました。この街で結婚してもいいか、と思うようになりました。

クリスマスチャンになられたのはすぐですか。

熊谷 教会に行つて一年くらいで、洗礼を受けました。その後、一〜二年経つて結婚しました。

しかしその後、二十年くらい経つた頃から、印刷形態の変化、パソコンの普及などで、次第に仕事の量が減つてきました。二十一世紀に自分の会社が生き残れるだろうかと思えるようになりました。CDやホームページの制作をしないではいけなかったのでは、とも考えましたが、何か毅然として革していったらいいか、どう

したら自分のビジョンを描けるか、と考えた時、たどりついたのが、「二十一世紀のグーテンベルク」になるう、ということでした。

二十一世紀のグーテンベルクですか。

熊谷 印刷屋の先祖はグーテンベルクです。世界で初めて商業印刷を始めた人。聖書を印刷し、当時の「情報の加工と流通」の先駆者でした。それなら自分は、二十一世紀にふさわしい情報の加工技術を駆使して、自分が価値があると認めた情報を加工して流通すればいい、と思いました。

そして、印刷の仕事を継続しながら、出版業を始めたのです。名前をE-PIX(イー・ピックス出版)とし、二〇〇一年一月一日から改めました。

熊谷 Eという文字はE-ink(電子インク)とExcellentの頭文字で、「わくわくして上質な」という意味合いをもたせました。そしてPIXはPicturesの意味で、写



クリトリ
ご住所
ご氏名
「私の近くの救世軍を紹介してください。」
「クリスト教についてもっと知りたいです。」
「ときのかえ」の購読を申し込みます。

「ドoramaチックな展開ですね。」
熊谷 本当に。でも、私は出版の仕事は初めて。二〇〇二年の一月からデータをもらつて仕事にとりかかったのですが、苦勞の連続でした。文字の大きさから始めて、どうしたら読者にわかりやすいものにするか、買いたいと思うものにするか、そして何より、だれが買うのか、と頭を抱えました。

「まさか神様の御業ですね。さて、熊谷さんのこれからの抱負をお聞かせください。」
熊谷 『ケセン語訳新約聖書』の著者山浦玄嗣さんのなさってきた業績を残すのが自分の仕事だ、と思つています。こ



の聖書の改訂版や廉価版を出したいです。電子ブックもつくりたい。完全に流された本も四冊分あるので、それを今年から来年にかけて出版したいと思つています。そのほか、山浦さんは戯曲などもたくさん書いておられるので、余裕があればそれを出したいです。聖書の中に「タラントンのたとえ」(マタイによる福音書25章14〜30節)というのがありますが、私は、神様からいただいたタラントン(命・時間・才能など)を、社会に向かつて使い続けることが大事なのだ、と解釈しています。これから、精一杯、神様からいただいたタラントンを使得つて、私に託された使命を果たしていきたいと思つています。(カトリック大船渡教会所属)

この部分を封書か葉書に貼り、裏面の下の救世軍にお送りください。



創立者 ウィリアム・ブリス 大將 リンダ・ボンド (万国本営 英国 ロンドン) 日本司令官 吉田 眞 (救世軍本営 東京都千代田区) <http://www.salvationarmy.or.jp> E-mail: webmaster@salvationarmy.or.jp

〈日本〉東日本大震災 被災地復興支援リポート

3月15日、東京地区からの救援チームは、大船渡市(岩手県)の永沢仮設住宅を訪れ、夕食に牛丼(300食)を届けました。4月10日～12日には、北海道からのチームが、陸前高田市(岩手県)と名取市(宮城県)の仮設住宅などを訪れ、食事会を開き、今まで以上に交流を深めました(食事数合計750食)。



雪どけをイメージした盛り付けの牛丼は、好評でした(大船渡の仮設住宅で)



オーストラリアの救世軍人が視察のため出島を訪れました

救世軍は、女川漁協(宮城県牡鹿郡女川町)の15の浜に対して、作業船やフォークリフトなど、復興のための支援を続けてきました。その浜の一つで、女川尾浦から漁船で15分の離島出島に、漁場監視船・救急搬送船(5.6トン・約5,500万円)を贈呈します。この島民も津波により大きな被害を受けました。仮設住宅での生活は始まりましたが、不便な生活が続いています。船の完成は、約1年後ですが、これらの支援には、オーストラリア、イギリス、カナダの救世軍からの資金が提供されます。



建設中の女川町の仮設店舗街(3月21日 現在の様子)

4月29日、女川町の仮設店舗街(30店舗)がオープンします。当日は、このプロジェクトの支援をしたアメリカの救世軍から総司令官、また企業(トライデントシー



世界をみつめて

〈オーストラリア〉洪水被災者支援

オーストラリア南東部は3月初めから水害に見舞われ、ニューサウスウェールズ、クィーンズランド、ヴィクトリアの3州で洪水が発生し、ここ150年で最もひどい被害が出ています。

中でも、ニューサウスウェールズ州の南部地域は最も深刻な痛手を受け、何千もの人々が家を追われ、避難しています。救世軍災害救援チームは、この地域にあるワガワガ、リートン、フォーブスなどの都市や町で、被災者の救援・支援活動をおこなっています。ワガワガでは、ボランティアの人たちの協力を得て、多くの避難センターにおいて、何百人もの人々に飲み物、食べ物、寝具などを提供しました。更なる被害が予想される地域に、いつでも出発できるよう、救援チームは態勢を整えています。

〈アメリカ〉トルネード被災者支援

今年に入り、いつもより早くトルネードの季節が到来しました。2月29日と3月1日の2日間に発生した数は、例年の3月中に起こる総数より多いものでした。救世軍の災害救援チームは、出動態勢を整えて待機し、いち早く被災地に駆けつけ、被災者がすぐにも必要とする食料、衣服、薬品、寝具、ベビー用品などを提供しています。また、時間の経過と共に、被災者の精神的なケアにも心を配り、インディアナ州南部では、非営利団体「ホープー動物による緊急支援の会(HOPE AACR)」と連携して、セラピードッグを派遣して活動をおこなっています。これらの犬は、被災した人々に笑顔と喜びをもたらしています。



救援活動開始から2週間の3月12日までに、救世軍は9,500食以上の食事を提供しました。ボルデンでは40家族以上に経済支援をおこない、ヘンリーヴィルでも同様の働きが始まっています。

母の日

毎年、5月第2日曜日は「母の日」—母親に感謝をする日です。アメリカ・ウエストバージニア州に住むアンナ・ジャービスという女性が、日曜学校の教師だった亡き母の記念会に白いカーネーションを配って母をしのんだことから始まりました。母親が、「あなたの父と母を敬え」という聖書の言葉から、母の深い愛に対し、心からの感謝を表すことの大切さを語っていたからです。

このことが人々の共感呼び、1914年、アメリカの議会で5月の第2日曜日が「母の日」として制定されました。

日本で母の日が一般化したのは、1950年頃からと言われています。



救世軍プラスバンド 〈ご案内〉

J S B (ジャパン・スタッフ・バンド)
スプリングコンサート

5月26日 午後2時
山室軍平記念ホール

東京・神田神保町
(東京メトロ・都営線 神保町下車 A6出口)

入場無料

日本での働きは、一八九五(明治28)年に始まりました。現在は、四十六の小隊(教会にあたる)と十一の分隊(伝道所、十九の社会福祉施設、二つの病院)ホスピス併設を通して働きを進めるとともに、街頭生活者支援や災害被災者救援など、様々な社会奉仕活動をおこなっています。

社会鍋のご献金を感謝します

昨年12月も、たくさんの方々からご協力をいただきました。心からの感謝とともに、結果をご報告いたします。このご献金は、救世軍の様々な支援活動や慰問活動に用いさせていただきます。

北海道地区	1,106,225
関東東北地区	1,055,859
東京・神奈川地区	16,594,042
東海地区	670,548
関西四国地区	2,078,301
中国九州地区	1,768,671
合計	23,273,646

(2012年3月31日 現在)

救世軍とは

The Salvation Army

聖書の神を信じ、イエス・キリストを唯一の救い主と信じる、プロテスタントのキリスト教会です。

創立者はイギリスのメソジスト教会の牧師だったウィリアム・ブリス。一八六五年、ロンドンの貧しい人々、社会から顧みられない人々の物心両面からの救いをめざして、働きを始めました。現在は、世界百二十四の国と地域で、助けを必要としている人々のニーズに応えながら、神の愛を伝えていきます。

(取扱支部)

救世軍は、統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、右救世軍にご相談ください。

発行日及び定価
発行日 毎月一日・十五日
定価 一日号一部五〇円(千六〇円)
十五日号一部六〇円(千六〇円)
クリスマス特集号(十二月一日号) 一部一〇〇円(千六八円)
一年分(二七〇円)送料七二八円
振替 〇〇一八〇五四四〇〇

発行兼印刷人 救世軍 代表者 吉田 眞
編集人 齋藤 恵子
〒101-0051 東京都千代田区 神田神保町二丁目十七番一
電話 東京(03)三三七〇八八一
発行所 救世軍本営
印刷所 救世軍本営 図書印刷株式会社

(この欄に通信文を書くとは第三種扱いになりません)